

祥明大學校短期研修に参加して

総合管理学部総合管理学科 2年 堀 愛由

韓国とはいったいどのような国なのか。私はこの気持ちを胸に、祥明大學校への短期研修に参加しました。日本国内で一般人にマスメディアから与えられる“韓国”という国は、決して日本に対して友好的なイメージはあまりなく、私が今まで日本国内で出会ってきた韓国人々とのイメージに大きなギャップが生じていました。今回の研修に臨んだ理由はこれにあります。自分の目で、自分の足で、自分の耳で、本当の韓国を知りたかったのです。

私のホストファミリーが住んでいる地域は、大田(テジョン)という場所で、祥明大學校のある天安(チョナン)までも、韓国の中心であるソウルまでも、とても距離のある場所でした。ほとんど毎朝、5時前後に起床して、高速バスに乗り、バスに乗り、地下鉄を乗

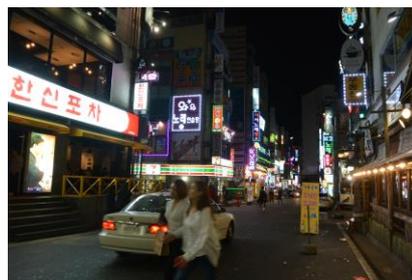


り換え、集合場所に向かう毎日でした。大変だったので、嫌だっただろうかと思われるかもしれませんが、私は逆に、大田だからこそ自分の確かめたいことをしっかりとみてこれたと考えています。ソウルは、観光地であり、日本語を話すことのできるお店や、道に迷ってもどこかを探せば日本語が見つかるような場所です。しかし、大田にはこれがありません。大田は観光地としてはあまり訪れる日本人が少ないため、まちには日本語がほとんど存在していませんでした。つまり、私は観光客向けの韓国ではなく、本当の意味で“そのままの韓国”を見ることができました。だからこそ、「日本人だから」と悪い印象を相手に抱かれるのではないかという思いと、言葉のわからない不安もありました。ホストファミリーは、ジャン・ヒラさんの家で、ヒラさんのお母さん、ジュニくんという高校三年生の弟がいましたが、ヒラさん以外は日本語ができません。日本から来て韓国語のできない私のことを受け入れてくれるのかと心配でしたが、本当の家族のように抱き合ったり、笑いあったりして、家族が恋しいと感じる間も、言葉の壁を感じることもありませんでした。

街では朝早く、ターミナルに向かうため、毎朝のようにタクシーに乗りました。



その際、毎回のように運転手の方は「日本人か？」と聞きます。「日本人だ」と答えると、黙ってしまう人もいれば、「楽しんで



ね」と声をかけてくれる人もいました。ですが、必ず降車時にはどの運転手さんも「気を付けて行ってらっしゃい」とあいさつをしてくれます。また近所のスーパーでレジをしているおばさんも私に「日本人か？」と声をかけます。私が、「日本人だ」と答えると、笑顔で「韓国をたくさん楽しんでね」と話しかけてくれました。ソウルでも、とても親切にしてくれましたが、観光地だからという理由だけではないんだと、天安や大田を訪れることで実感することができました。また、韓国の中でも、田舎である泰安（テアン）という地域にも土曜日から家族で旅行に行きました。泰安は、ヒラさんのお父さんが単身赴任の場所で、海に囲まれた自然豊かな街でした。泰安で夕食を食べた食堂の社長は、日本は自然が豊かで町もきれいでとても尊敬すると話してくれました。旅行の帰りに訪れたお寺の売店でも、日本が好きだといって、私にアイスコーヒーをくれたり、韓国の人々がとても温かったことが印象強かったです。特に、田舎というと、閉鎖的なイメージで、入ってくる情報も都市に比べれば少ないので日本という国を良く思わない人もいるだろうと思っていましたが、まさかここまで歓迎して頂けるとは思いませんでした。

日本との文化の違いも性格の違いも多くありましたが、何よりも、韓国の人々から感じたものは「自分らしさ」であり「人間らしさ」そして、「温かさ」でした。たとえ、お店の店員でも、バスの運転手でも、嫌と思ったら嫌だ、楽しい時は楽しい、自分が正しいと思うことは、正しいんだと相手がお客様であろうとはっきり伝えている場面もありました。日本ではそれが、接客のマナーに反していると言われることでも、私がある場面で感じたのは心であり、人間味、そして暖かさでした。お客様と店員ではなく、一人の人間同士の生活の営みでした。振り返ってみれば、“日本人”という壁を作っていたのは、自分だけであり、韓国の人々は私が日本人だとわかってもおなほ、日本という国の人間ではなく生まれ育った場所が日本であるだけで、一人の人間として接してくれたのだと思います。だからこそ、自分が良いと思った人間に対して親切にするのは、日本人だからではなく、自分が親切にしたいと思ったから行動するという韓国の人々の人間らしさと温かさを身をもって知ることができたと思います。

祥明大學校で出会った学生のみなさんとの時間も、家族との時間も、一生に一度しか出会わないような方々との時間も、すべてが、これからの人生において基調な時間でした。そして、お互いを尊重し、尊敬し



あうことができた一週間でした。とても短かったですが、家族や友達を含めた沢山の宝物ができました。日韓友好といった大きなことは言えませんが、まずは自分が感じた韓国をその一歩にいかにつなげるか、活かしていくことができるかをこれから探っていかなければならないと考えます。今回の研修に参加することで、自分の価値観が大きく変化し、広い視野で見極めていくことの必要性、そして、国は違えど同じ気持ちで笑ったり泣いたりできる人間同士であることを学ぶことができました。祥明大学校の皆さん、韓国の家族、そしてこのような機会を与えてくださった全ての方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。